

21世紀へのトレンド

アジア外交の視点誤るな

天皇訪中を控えた東アジアの情勢が、中韓国交、南北朝鮮対話、台中交流緊密化など極めて流動的な様相をみせている。中嶋嶺雄東京外国大学教授は「アジア情勢は必ずしも楽観できる状況になく、それだけに情勢をきめ細かく見極めるとともに、日本は西側の一員として普遍的価値を掲げてのアジア外交が必要」と指摘する。

緊張高まる米中関係

——エリツィン・ロシア大統領の訪日延期は東アジア情勢に響きますか。
訪日延期自体は日ロの二国間の問題だし、今の東アジア情勢は経済を中心に動いているが、ロシアの東アジアに対する経済的影響は極めて小さいので、ロシアの出方が今すぐ東アジアに直接大きく影響するとは思えない。しかし、エリツィン大統領が日本訪問をやめて韓国や中国を訪れるような結果を招いた点からしても、日本外交は大変な失態をやっていると思う。
——では、今、東アジアの基本的状況は。
それは欧州と比べればよくわかる。欧州は新しいEC統合に向かっていて。これは今後ますますなるとはいえないと思うが、しかし全体的には欧州は均質的なレベルにあるし、国際関係が伝統的に欧州型政治体形に出来上がっている。これに比べアジアはまず格差が大きい。国民一人当たりの国民総生産(GNP)にしても、日本は三万円に手が届くところ。次にその上に全欧安保会議やE



シアの基本的状況は。に高い香港は二万二千五百が、台湾、シンガポールが一百万を超え、韓国は四千万、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)は算定が難しいが千から二千ぐらい。これにアジアの中心にある中国は依然として三百五十万前後で横ばいで、台湾との間に三十倍の格差ができています。また、欧州各国には歴史的にも同じテーブルにつきやすいシステムがあって、その上に全欧安保会議やE

ポイント

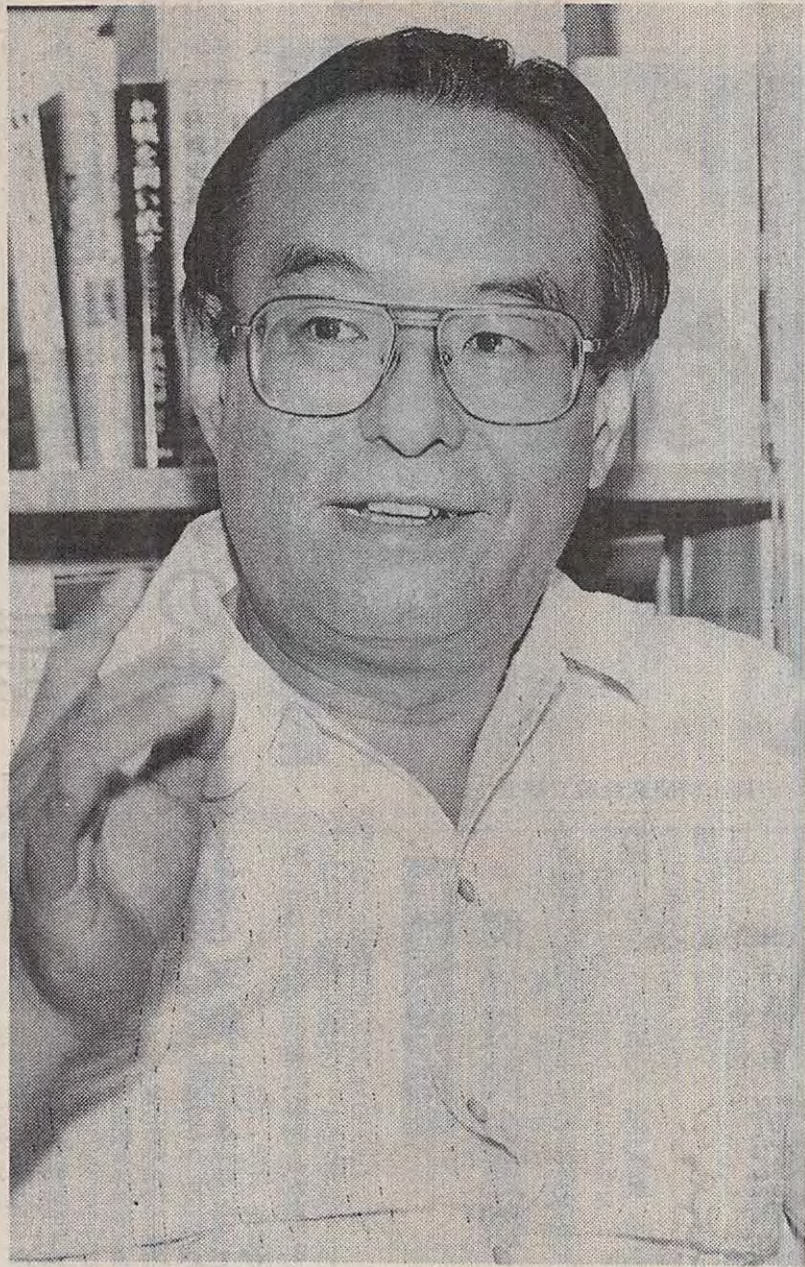
- ①エリツィン・ロシア大統領の訪日延期は、直接にはアジア情勢に関係ない。
- ②各国が比較的均質で歴史的にも同じテーブルについてきている欧州に比べ、アジアは格差が大きく政治的壁もあって協調のシステムができていない。
- ③にもかかわらず、アジアでは政治の壁を越えて経済の流れ、人の動きが出てきている。
- ④流動化するアジアの情勢は必ずしも楽観できるものではなく、これに対処するために日本は、西側の一員として普遍的価値に基づくことを明確にした外交方針を示すことが必要。

日中、西側警戒感 台湾を見直す動きも

——一口に言ってもアジアは安定化に向かっているのか、緊張に向かっているのか、どちらでしょう。
非常に流動的だが、必ずしも楽観できない。まず、米中関係はかなりの長期的に緊張するのではないか。米国で最も中国を理解する立場のブッシュ大統領が、中国の抗議にもかかわらず、台湾へF16を売る決断をしたことは、米国の非常に大きな意思だと思える。そして米国会議とか民主党の、中国により厳しい

中韓台の動向見極めよ

政治の壁越え活発に交流



東京外国語大学 教授 中嶋 嶺雄氏

これはグローバル主義の、アジア主義でくのかという問題だ。それに関連して注意なければいけないのは、本は天皇訪中を契機に中と一体化したアジア主義心か、西側諸国で強まっていることだ。フランスなどは、今なぜ日本は中国と着すのかと見ている。

中台交流で 情勢複雑に

その意味では逆に、今日本がどういう態度をとかによって、アジアに対する影響力が非常に大きくなっていくのではないかと気がする。

農業 私はこう思う

農耕民族として工業と調和とり 何といっても農業は人間 の生存にとって最も大きな

原点。台湾は、今は米国にハイテク製品とかバイオテクノロジーの製品を輸出しており、ウーロン茶も大陸以上においしいものを輸出している。これは農業を重

視し、近代的な科学技術を取り入れていたため、農業を工業と調和のとれた発展をさせることが、農耕民族主体のアジアの今後あるべき一つの理想的な姿だ。

なかじま・みねき 昭和十二年五月十一日、長野県松本市生まれ。東京外国語大学中国科卒、東京大学大学院社会学研究科博士課程中退、社会学博士。世界経済研究所、外務省特別研究員、オーストラリア国立大学客員教授、フランス国立国際関係センター兼パリ政治学院客員教授などを経て現在東京外国語大学外国語学部教授・海外事情研究所所長。